

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「書き手の考えを内容の理解、テーマについて考えを述べ合おう」 教材名「「考える」とは」

2 単元の目標

事例と意見がどのような順で示されるかを捉え、文章の構成や展開を理解できる。本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事例と意見がどのような順で示されるかを捉え、文章の構成や展開を理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「読むこと」において、本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げている。（C(1)オ・C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

考えるという言葉について書き手がどのように説明しているかを、文章の展開と事例を手がかりに読む。書き手の見方を自分の学習や生活の経験に当てはめ、当てはまる部分と説明が必要な部分を分けて自分の考えをまとめる。学習指導要領のC(1)オ・C(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

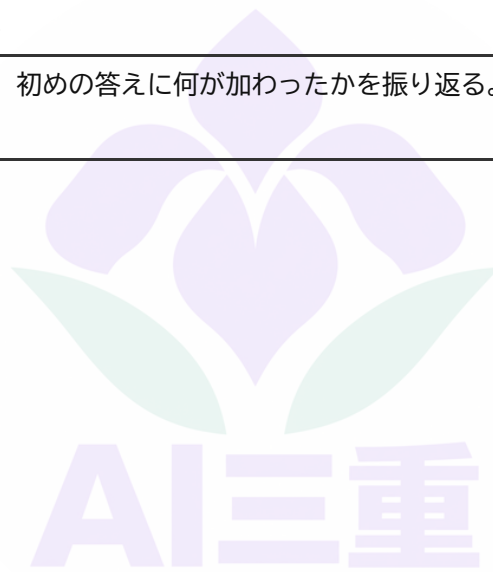
(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

「書き手の説明」「経験の実際の場面」「そこからの自分の判断」を別の欄に置く。経験が抽象的な場合は、何を迷い、何を確かめ、どう判断したかを尋ねる。おおむね満足できる状況は、本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、題名への自分の答えと書き手の答えの違いを記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○事例と説明を分け、書き手の考えが述べられるまでの文章の展開を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○書き手の説明を自分の実際の経験と結び付け、対応する点と迷う点をメモする。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○本文と経験の関係を説明し合い、友達の疑問を受けて自分の考えを確かめる。	思①（発言・学習記録）
	5	○意見文を書き、本文の理解と自分の意見を読み手が区別できるように直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見を交流し、初めの答えに何が加わったかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」 【めあて】考えるという言葉について書き手がどのように説明しているかを、文章の展開と事例を手がかりに読む。 〈予想される児童の反応〉 ・答えを知っていることと、理由を考えたことは異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・答えを知っていることと、理由を考えたことは異なる。 ・自分の経験の全てが本文の説明に当てはまるわけではない。 ・友達の経験を聞いて別の考え方に気付いた。	「書き手の説明」「経験の実際の場面」「そこからの自分の判断」を別の欄に置く。経験が抽象的な場合は、何を迷い、何を確かめ、どう判断したかを尋ねる。想定する難しさ：日常の持論だけを述べて本文が根拠にならない。書き手の意見に賛成することが正解だと思う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の経験を聞いて別の考え方に気付いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

